

## 柏の葉セグウェイクラブ

### 街にコミュニケーションを生む近未来のモビリティ



近未来的なデザインと、環境負荷が低いことで注目の電動立ち乗り二輪車「セグウェイ」。近距離交通としての活用はもちろん、街に交流を生み出すコミュニケーションツールとしての可能性も持ったすぐれものです。柏の葉地域は、日本で初めて公道走行を行うなど、これまで数々の取り組みを進めてきたセグウェイゆかりの地。2010年5月には住民が主体となったクラブ組織が発足し、本格的な街づくりへの導入が始まりました。

#### 搭乗型移動ロボット

セグウェイは2001年にアメリカで誕生。2005年の日米首脳会談の際、当時のブッシュ大統領から小泉総理大臣へ贈られたことで一躍有名になり、2006年から日本でも法人向け販売が始まりました。

乗車条件は、16歳以上で体重48kg以上118kg未満であること。直感的な操作が特徴で、ハンドルにはブレーキもアクセルもありません。前進後退・加速減速は前後への重心移動で、方向転換はハンドルを傾けることで行います。

数十分程度の講習を受ければ、誰でも簡単に乗れるのが人気の秘密。日本での販売を行うセグウェイジャパンの秋元大さん(38)は、「セグウェイは乗り物というよりは搭乗型移動ロボット」と言います。慣れてくると自分の体の一部になり、ロボットスーツのように自在に操れるようになるのだとか。

#### 街づくりに生きるセグウェイ

柏の葉地域では、当初環境に優しいモビリティとしてセグウェイに着目。2008

年に、CO<sub>2</sub>を排出しない乗り物を集めた「UDCK柏の葉モビリティ・フォーラム」の中で初めて試乗会を実施しました。

この時、セグウェイには単なる移動手段にはとどまらない大きな魅力があることを発見。街づくりに生かせる特徴を持つことに気が付きました。

特徴の一つ目は、景色を見ながらの走行にとっても適していること。セグウェイは最高20km/hまでスピードが出ますが、通常利用時は人が足早に歩く程度の6~7km/hが中心です。ゆったりと景色を楽しみながら、長い距離でも疲れずに楽しく移動することができます。

二つ目は、コミュニケーションが活性化すること。セグウェイに乗っていると、道行く人から必ず声を掛けられます。また、乗車中は誰もが社交的な気分になり、普段はあいさつをしないような人でも思わず手を振りあいさつをするように。実際、警察のパトロールにセグウェイを導入したアメリカのシカゴでは、警察官と市民の会話が盛んになり、窃盗などの軽犯罪が大幅に減少したという実績もあります。

こうしたセグウェイの力を街づくりに

生かそうと、モビリティ・フォーラム以降も地域の見どころを回るツアーなどイベントを継続的に実施。今年5月には、今後の本格的な普及活動を担う住民主体のサークル組織「柏の葉セグウェイクラブ」が発足しました。



柏の葉地域では、2008年の「UDCK柏の葉モビリティ・フォーラム」にて、国内初となる公道を使った試験走行を実施。



「走るノートパソコン」と言われるほど、精密なテクノロジーが駆使された本体部分。7つのセンサーで重心移動をコントロールし、乗車中のバランスを保つ。

## 柏の葉セグウェイクラブ

### 初めての試乗会

セグウェイクラブの活動は、セグウェイを街に広め、活用すること。最初の対外活動は、7月24日に行われた柏まつりでのセグウェイ試乗会。開催に向けてクラブメンバーは、セグウェイジャパンの公式講習を受講し、公認インストラクターの資格を取得しました。

試乗会には、噂を聞きつけた希望者が殺到。18名の定員枠はあっという間に埋まってしまいました。一回30分で、一度に3人の参加者が試乗。クラブメンバーがそれぞれマンツーマンで指導します。



柏まつりでの試乗会。初めて乗るときは緊張の一瞬。前方でセグウェイを支えることで、恐怖心を取り除く。

初めは緊張で固かった参加者も、表情が和らぐにつれ技術も上達。試乗した取手市在住の大坂渉さん(42)は、「自分が思うように動くので面白い。インストラクターが付いてくれるので、安心して体験できた。機会があればまた乗りたい」と、短い体験でも十分にセグウェイの楽しさを実感した様子です。

初めてのインストラクターを無事に務めたクラブメンバーも、参加者との会話が弾み充実した表情。メンバーのひとり池部比佐代さん(30)は、「予想以上に多くの人から声をかけられ、コミュニケーションに役立つことを実感した」とセグウェイの力を再認識したそうです。

### セグウェイのある街を目指して

柏の葉セグウェイクラブの活動は、まだ始まったばかり。「次はもっと長距離で、森林など空気のきれいなところでやりたい」と、メンバーは次なるイベント実施に意欲的です。将来的には公園管理者が利用したり、自転車のように街でシェアした



インストラクター講習は、講義と実技の2本立てで3~4時間にも。セグウェイの操作技術から、「いかに人に話を聞いてもらうか」といった指導術まで学ぶ。

りと、街中で活用されることが目標です。

まずは、今後も試乗会やツアーなどを開催し、市民がセグウェイと触れ合う機会を増やしていく予定。「セグウェイを使ってこんなことをしてみたい」というアイデアがあれば、ぜひセグウェイクラブに参加を。

お問い合わせは、まちのクラブ活動事務局まで  
[TEL] 04-7137-2221  
[MAIL] info@kcvn.net

## キーパーソン・トーク

セグウェイに乗ると誰でも自然と笑顔になり、「こんにちは」とあいさつが生まれます。この現象は世界共通で、私たちは「セグウェイスマイル」と呼んでいます。

「セグウェイがバイクのように普及して珍しくなくなれば、そんな現象は起きないのでは」とよく質問されますが、私たちはセグウェイがそのような使われ方をすると考えていません。走行中に座ることができないなど不便な点も多く、単なる移動手段としてはあまり向いていないからです。それよりも街並みを楽しむツアーなど、移動自体を楽しむ使い方に適しているので、使用はあくまで限られたシチュエーションが中心になります。

セグウェイの持つ力は、一言でいえば「関係性

の構築」。それは柏の葉の街づくりにおいても、大いに活用できます。例えば、街と街に興味がある人の関係性を結ぶこと。セグウェイクラブのメンバーが、街をセグウェイで案内するツアーを組めば、きっとその人は柏の葉を好きになってくれます。

また、住民と住民をつなぐ役割も期待できます。例えば、セグウェイを使ってPTAなどが自警団となり街を巡回してはどうでしょう。住民同士がお互いに関心を持ち合えば、地域の防犯・防災につながります。昔からよく「声かけ運動」などの活動がありますが、セグウェイを使うことでそれを楽しく実践できます。

日本では法令上まだ公道走行ができないので利用方法は限られますが、柏の葉公園を回るだけでも十分に街の魅力は伝えられるはず。ぜひ、セグウェイをうまく街で活用してください。



秋元 大氏  
セグウェイジャパン株式会社  
取締役  
インストラクターを認定する「アドバンスド・インストラクター」として、これまで国内で1000人以上のインストラクターを育成。

### □編集後記□

セグウェイの講習中、道行く多くの人が立ち止り、声をかけてくださいました。UDCKでは様々なイベントを行っていますが、これだけ注目されることは珍しく、セグウェイの力を実感。セグウェイを通じて、街づくり活動に参加する人が増えることにも期待しています。(蛭川)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川  
〒277-8518 千葉県柏市若柴字元堂178-3柏の葉キャンパス駅前148街区3画地  
TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688  
E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB http://www.udck.jp

柏の葉  
アーバン  
デザイン  
センター

UDCK